

「赤ちゃんに多い 接触性皮膚炎」

急性皮膚疾患の二つで 2種類のタイプがある

接触性皮膚炎は、簡単に言うとかぶれのことです。原因となる物質に触ったことで皮膚が炎症を起こす「二次刺激性接触皮膚炎」と原因となる物質に触ったことで体が抗体をつくり、一度目に触れたときに炎症を起こす、免疫が関与している「一次アレルギー性接触皮膚炎」の2種類あります。二次刺激性接触皮膚炎はアレルギーが関与しないため、誰にでも起こる可能性があり、赤ちゃんのかぶれは、ほとんどが二次刺激性接触皮膚炎によるものです。

赤ちゃんに多いおむつかぶれ 清潔を心掛けまめに取り替えて

おしり、口周り、指・手、首のかぶれは、赤ちゃんによくみられます。おしりは、おむつの中の湿度が高くなると、皮膚が炎症を起こしやすい状態になります。もともと赤ちゃんの皮膚は未熟で薄く、外的な刺激に対する抵抗力が弱いので、おむつの繊維が触れることが刺激になって敏感になっているところに、うんちや尿が刺激になりおむつかぶれとなります。かぶれるとおむつが当たる部分が赤く炎症を起こし、ブツブツと

小さな発疹ができ、ただれたようになりま
す。さわると痛がりますし、ひどくなると真
つ赤にはれ上がることもあります。

おむつかぶれは予防が大切です。こまめに
おむつをかえ、おしりを清潔な状態に保ち
ましょう。とくにうんちをしたときは、ぬら
したティッシュなどで汚れをきれいにふき取
り、おしりを乾燥させ、清潔な状態にしてか
らおむつをするようにしてください。

また、気をつけたいのはカビの一種である
真菌がついて炎症をおこすカンジダ性皮膚
炎です。症状が似ているのですが、カンジダ
性皮膚炎の場合、おむつかぶれに処方する
ステロイド軟膏薬を使うと悪化する恐れが
あるため注意が必要です。

口の周りや頬、あごが赤く痛痒そうにな
っているのは、ほとんどの場合かぶれによる
ものです。赤ちゃんの肌はアクリートなので
ミルクやよだれなどで、すぐに赤くなってい
まいます。こまめに拭いてあげるなど清潔
を心がけましょう。よだれによるかぶれ、と
簡単に考えないでください。炎症を起こす
と治りにくくなってしまいます。感染症を
起こしている場合もあり、専門医でなけれ
ば判断ができません。素人判断で薬を使わ
ず、皮膚が赤くなっていると思ったら、早め
に皮膚科を受診してください。

Hospital Information

澄川たかだ皮膚科クリニック

昨年11月に開院したばかり。20年以上臨床経験を積んだベテランのドクターが、アトピー性皮膚炎、湿疹、皮膚炎、じんましん、水虫、いぼ、うおのめ、水いぼ、脱毛症、やけど、にきび、しみ、ほくろ、皮膚腫瘍、巻き爪、陥入爪など皮膚のさまざまな疾患の治療を行なう。ゆったりスペースをとった院内にはキッズルームがあり、小さな子どももが退屈しないよう配慮している。

札幌市南区澄川6条4丁目11-10
☎011・820・1200
<http://www.sth-cl.com/>

アドバイザー

澄川たかだ皮膚科クリニック

院長 高田 知明 先生

北海道立旭川東高等学校卒業、北海道大学医学部医学科卒業、札幌医科大学大学院医学研究科博士課程卒業、北海道大学医学部附属病院第二外科及び道内関連病院、札幌医科大学附属病院皮膚科に勤務。2011年11月開院。医学博士、日本皮膚科学会認定皮膚科専門医。

